

県立村山特別支援学校

【評価】 「達成度」 A：達成できた（８割以上） B：ほぼ達成できた（６～７割） C：あまり達成できなかった（４～５割） D：達成できなかった（３割以下）
保護者、教員アンケートによる評価＜A～Dの４段階評価の内、AとB合計の割合＞ 達成できた（８割以上） ほぼ達成できた（６～７割） あまり達成できなかった（４～５割） 達成できなかった（３割以下）

No	項目	今年度の重点	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	課題及び改善策
1	早く登校したくなる 楽しい学校	①新しい教育環境を十分に活用し指導の充実に努めます。	○学習室やプレイルーム、多目的室、図書室、畑を有効に活用できるように計画等を行う。(教)(学)(各学部) ○図書室の整備を行う。(学)	○多目的室や学習室を学部を超えて活用できた。(各学部) ○寄贈蔵書の整理を行い、児童生徒が使いやすくなった(学) ○多目的室や畑を利用することができた。(各学部)	A△ 保4 教2	①学習室、畑、多目的室、グラウンドの利用などについて各学部の意見を調整しながら使用計画を作成する。(教) ・学習室や調理室などがより使いやすくなるように、使用状況がわかる工夫をしていく。(教)(学)
		②授業研究会を計画的に行い、協議した内容を日頃の授業の改善に生かします。	○授業研究会・公開研究会を計画・実施する。(研) ○授業改善に向けての研修会を実施する。(研)	○校内授業研究会を2回実施し全学部参加で事後研究会を行った。 公開授業研究会では外部からの参加者からの意見、助言者からの指導をいただくことができた。 ○生活単元学習について、講師を招聘しての研修会を行った。(研)	A△ 教3	②事後研究会のまとめ(研究通信)の内容を簡略化し、授業実践に生かしていくことを中心にし、速やかに発行する。(研) ・単元開始前の授業案の検討、単元途中での見直しを継続する。(中)
		③チームで個別の教育支援計画や個別の指導計画を評価に活用し、一人一人の教育的ニーズを把握しながら支援の充実を図ります。	○障害者差別解消法施行に伴う、合理的配慮の記載について検討する。(教) ○年間学習活動計画の作成し活用する。(学) ○「個別の指導計画」の書式を工夫する。(教)	○個別の教育支援計画に枠を追加して、保護者(本人)と合意形成の内容を記載した。(教) ○個別の指導計画の書式変更により、個々に対応した目標設定や適切な手立て等をより具体的に考えることができた。(各学部)(教)(学)(小)(中)(高)	A 保2,3 教4,8	③個別の指導計画について、来年度の書式の改善案を検討し、書きやすさ、活用のしやすさの観点で変更が行えるようにする。目標設定の仕方、手立てや評価内容の書き方については、書き方を提示する。(教)(高)
保護者2：成長を感じる 98%△ 保護者3：指導・支援 94%△ 教員3：授業改善 94% 教員4：個に応じた指導 100%△ 教員8：専門性 93%△ 教員2：運動量 100%△ 保護者4：体を動かす活動 98%△						
2	安心してまかせられる安全な学校	①学校内の教育環境の変化に伴い、事故の未然防止に努め、通学路や避難経路等の安全な環境整備に努めます。	○山形豊学校と連携を図り、避難訓練や研修会を実施したり、危機管理の体制を整える。(保) ○熱中症やインフルエンザ予防の具体的な方策を工夫する。(保)	○通学指導の定期的な実施により、登下校時のマナー指導などに生かすことができた。(生)(中)(高) ○熱中症予防のホワイトボードを職員室内に設置したり、インフルエンザや胃腸炎流行時に保護者にお便りを配付したりしたことで未然に防止することができた。(保)	A 保1 教1	①通学路や避難経路の安全確保に努める。(保)(生) ・インフルエンザ等の感染症について、感染拡大を防ぐ手立てを工夫する。 ・グラウンドでの緊急時の対応について再度確認し、より速やかな対応を検討する。
		②ヒヤリハットの事例を数多く集積し、職員の安全に対する意識を高め、児童生徒が安心して過ごせる環境を整えます。校内でのけがやトラブルを迅速に保護者に伝えます。	○ヒヤリハットの収集と情報発信を行い共有し、職員の安全に対する意識を高め児童生徒が安全に学校生活を送れるようにする。(保)	○ヒヤリハット事例や事故の情報を共有し、生徒の行動について予測したり、対応を確認できた。(中) ○ヒヤリハット事例に書かれている内容は全職員に回覧することができた。(保)	A 保5 教7	②ヒヤリハット事例について、小さな事でも記入するように呼びかけていく。また、ヒヤリハットの情報を速やかに共有していく。(保)(各学部)
		③必要に応じて関係機関との連携を図り、校内の就学や進学、卒業後の進路についての相談支援体制の充実を図ります。	○行政、相談支援事業所等関係機関と連携し、情報交換等を密にしていく。(進)	○進路だよりを発行して、B型アセスメントの情報など、保護者から問い合わせの多いことについて、情報提供できた。(進) ○他校への進学にあたって、情報収集など進学予定先との連携を図ることができた(相)	A△ 教5	③事業所のパンフレット等を収集し、進路指導室に掲示するなど情報提供を工夫する。(進) ・保護者向け研修会を企画する。(進)
		④安全指導や生活指導(含む、いじめ)を計画的に行い、事件、事故の未然防止に努めます。また、発生時にはケース会を迅速に開きチームで支援に当たります。	○教職員全員で児童生徒を支援する体制を作る。必要がある時にはケース会を開きチームとして協働して解決に取り組む。(生)	○学校生活アンケート実施後、速やかに集計を行い必要に応じて、生徒指導にかかるケース会議を行い、チームで対応できた。(生) ○緊急メール連絡網の保護者の説明や新規登録の要請等体制整備を行った。また、修学旅行や宿泊学習で保護者への連絡ツールとして利用できた。	A 教12	④校内ケース会議の活用と学校生活アンケートの速やかな集約と対応を図る。(生) ・緊急メール連絡網を、台風や大雪時の通学方法の確認、インフルエンザ等の流行時など、緊急時の連絡ツールとして活用する。
保護者1：安心して任せられる 98%△ 保護者5：保護者と連絡 97%△ 教員1：健康安全 98%△ 教員5：進路指導 92%△ 教員7：ヒヤリハット事例 96%▼ 教員12：いじめ対応 98%						

No	項目	今年度の重点	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	課題及び改善策
3	相談や支援を受けられる 頼りになる学校	①公開研究会の開催を広報し、校外の方々から意見をいただく機会を設けます。	○授業研究会・公開研究会を計画・実施する。	○11月に公開研究会を実施、外部から15名が参加している。(研) ○授業研究会の他に、生活単元学習についての研修会を実施した。	A 保6 教6	①公開研究会は、外部から参加しやすいように、案内を早めに出して周知を図る。(研) ・事後研究会のまとめを研究通信として、できるだけ早く発行し共通理解しながら研究を進める。(研)
		②県や山形市の教育支援に協力し、障がいのある子どもの教育相談を担当します。	○保護者や児童生徒への対応の仕方、各種発達検査などについて研修を行う。(相)	○就学相談に係る教育相談に向けて、保護者や児童生徒への対応の仕方や聞き取り内容、報告書の書き方等、部内で確認し共通理解のもと相談にあたることができた。(相)) ○発達検査についての研修会を実施した(相)	A 教9	②事前検討会は継続し、担当者だけでなく、チームで相談にあたれるようにする。(相)
		③要請のある学校の指導支援等に積極的に対応します。	○授業研究会の助言として、授業への助言を行う。 ○教育相談について事前検討会を充実させる。(相)	○小中学校5校の授業研究会に助言者として参加し、助言を行った。(小)(中) ○事前の検討会や資料を回覧し部内で検討した上で巡回相談を行うことができた。(相)	A 教9	③授業研究会や教育相談で出向く前に、事前の検討会等を行い、誰でも助言者として対応できるようにしていく。(相)(各学部)
		④学校公開や学習発表会、交流学習やホームページを通して本校の情報を発信します。	○分校と連携を図りながら、ホームページで学校の情報を発信する。(情)	○学校公開研究会等の案内、学校要覧の基本的な情報などについてホームページの更新がスムーズに行われた。特に今年度から年間行事計画も掲載した。(情)(教)	A 保6 教6	④学校の活動がより分かりやすいホームページになるように、文字だけでなく写真掲載をしていくように検討していく。(情)
保護者6：授業参観、各種行事、学校公開による情報発信 100%△ 教員6：授業参観、各種行事等の情報発信 96%△ 教員9：センター的機能 100%△						
4	働きやすい やりがいのある学校	①2つの分校との定期的な情報交換の場を設け、共同で交流活動に取り組みます。	○日常的に分校と連絡・調整を行い、スクールバスの有効活用と交流学習や行事等の計画を行う。(教)	○分校との教務主任会、小学部主任会を行い課題について共通理解、調整を行うことができた。 ○合同学習等では、合同練習や事前学習を含めて、担任同士で連携を図り充実した交流ができた。また、スクールバスも活用することができた(小)	A 教13	①本校・分校職員が集まって、話し合う機会を設け、交流活動の内容を吟味したり、業務の分担をしたりしていく。(小) ・今年度の反省を踏まえて、交流活動としてふさわしい場所、内容について吟味していく。
		②二校連絡会を通して山形豊学校との連携を密にします。	○山形豊学校と適宜連絡・調整を行い、共有施設の有効活用、交流学習や行事等の計画を行う。(教)	○月1回山豊との連絡会、適宜連絡を取り合い調整を図ることができた。(教)	B 教11 教14	②定例会を継続すると共に適宜連絡を取り合い、調整を図っていく。
		③月2回の「定時退校日」の確実な実施に取り組みます。併せて、金曜日には会議を設定しないこととし、子どもや授業のために使う時間の創出に努めます。	○情報機器利用の情報提供を進め、活用できる体制を整える。(情) ○月2回の定時退校日を設け、確実に実施する。(教)	○情報便りを発行し、情報機器に対する理解や情報セキュリティに対する意識の向上を図るようにした。(情) ○学部会での生徒理解の時間は紙面を使って連絡を行い効率化が図られた。(高)	A 保7 教10	③月2回の定時退校日を来年度も設定する。教務が主体となり呼びかける。(教) ・定時退校日には学部での声掛けを継続する。 ・職員会議は議題を精選しながら毎月実施する。(教) ・指導や評価についての話し合いは、年間を通して見通しがもてるような計画、時間の確保ができるようにする。(高)
保護者7：教員は明るく元気 97%▼ 教員11：ゆとりづくり 75%△ 教員10：職員間の連帯感 92%△ 教員13：交流や連携 85%△ 教員14：定時退校日 92%△						

＜学校評議員会より＞

- ・作業学習の地域の人材、引退しているがその道の専門の技術を持っている方を活用してはどうか。作業学習の木工加工に元大工のノウハウを活用するなど。
- ・地域と学校が連携して取り組むことが大切。
- ・社会の一員としてお手伝いが大切。家庭でも手伝いを積極的に取り入れることが大切。
- ・福祉制度について、よく知らない保護者も多い。福祉制度や進路に関する情報など、さらに学校から情報発信して欲しい。
- ・広い校舎になり、教室の冷暖房もあり、良い環境である。
- ・保護者同士、保護者と教職員が、話し合える場が少なくなっている。絆が薄くなっているのではないか。本校だけではないが、通学支援サービスが充実してきた中で、送迎に保護者が来なくなり、以前のように送迎時に情報交換がしにくくなっているのではないか。